

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 64 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2022 年 10 月 21 日 (金) 9:30~11:00
2. 場 所 Web 開催 (Webex)
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 中川 (幹事), 大木, 岩本, 新井, 兼折
(加藤代理), 望月, 右田, 遊佐, 高尾, 稲垣, 山上, 吉成, 中川, 一森,
松藤, 辻 (18 名)
(欠席委員) 橘高 (1 名)
(常時参加者) 皆川, 水田, 山崎, 長谷川, 上野, 田村, 牟田, 中原, 後藤, 澁谷,
伊藤, 榎崎
4. 配布資料
 - P14SC64-1 第63回PLM分科会議事録案
 - P14SC64-2 PLM実施基準2021英訳本報告案
 - P14SC64-3-1 PLM実施基準202X年版 (追補2) 案の標準委員会決議投票結果
 - P14SC64-3-2 PLM実施基準202X年版 (追補2) 案の意見対応案
 - P14SC64-4-1 PLM実施基準202X年版 (追補3) 案の専門部会決議投票結果
 - P14SC64-4-2 PLM実施基準202X年版 (追補3) 案の専門部会決議投票意見対応案
 - P14SC64-5 長期運転体系検討タスク (フェーズ2) の状況報告
 - P14SC64-6 米国SLRに関する技術情報
 - P14SC64-7 PLM実施基準の5年計画記載案

参考資料

- P14SC64-参考1 PLM実施基準改定スケジュール
- P14SC64-参考2-1 第60回システム安全専門部会議事録 (案)
- P14SC64-参考2-2 第89回標準委員会議事録 (案)
- P14SC64-参考3 PLM基準2021年版正誤表
- P14SC64-参考4 経年劣化判定会議からの劣化メカまとめ表への反映提案

5. 議事

会議に先立ち、開始時点での出席委員は 17 名で定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC64-1)

第 63 回 PLM 分科会議事録案が紹介され、承認された。

(2) PLM実施基準2021英訳本報告案 (P14SC64-2)

各委員・常時参加者で分担して確認作業を実施したPLM実施基準2021の英訳案が示されたが、文章全体への水平展開の作業等が未完了である旨が報告された。審議の結果、英訳案を事務局で完成させた後、11/8のシステム安全専門部会までに委員・常時参加者に英訳案をメールで送付し全体を確認した上で、次回専門部会で本報告することが承認された。

(3) PLM実施基準202X年版（追補2）案の標準委員会決議投票結果及び意見対応案について (P14SC64-3-1,2)

PLM実施基準202X年版（追補2）案の標準委員会の決議投票が実施中（～10/21）であり、現状では意見付き反対、意見付き保留及びその他意見はない旨が報告された。今回報告以降の意見があればメールで周知し、必要があればメール審議を実施した上で、次回システム安全専門部会で報告することとなった。

→10/21に追加の意見なく可決された。

前回の専門部会での指摘事項の対応案が説明された。審議の結果、修正案を次回のシステム安全専門部会で報告することが承認された。また、劣化メカニズムまとめ表に記載のあるケーブルの「高圧電源心、制御心、同軸心」について一般的に使用しない表現のため、この表現とした理由及び他に適切な表現がないかを教えてほしいとの質問があり、調査して後日回答することとなった。

(4) PLM実施基準202X年版（追補3）案の専門部会決議投票結果及び意見対応案について (P14SC64-4-1,2)

PLM実施基準202X年版（追補3）本報告案の専門部会決議投票の結果、反対意見等なく可決された旨が報告された。また、決議投票でのその他意見の対応案が説明された。審議の結果、修正案を次回のシステム安全専門部会で報告することが承認された。

(5) 経年劣化判定会議からの報告事項 (P14SC64-参考4)

前回のPLM分科会で報告のあった、経年劣化判定会議からの劣化メカまとめ表への反映提案について、分科会で一部の事象をまとめ表への反映否と判断したことを受けて、10月上旬に実施された劣化判定会議での議論の内容が高尾委員より報告された。劣化判定会議では今後も経年劣化事象と判断された事象に関してはすべて分科会へ報告を実施すること、分科会でまとめ表への反映要否を判断する際の情報が少なかったため、今後は発生時の状況や原因についてより詳細な情報を提供することが報告された。分科会としても、劣化判定会議等からの情報は非常に重要あり今後もぜひ報告いただきたいが、分科会でまとめ表への反映要否の判断については前回反映否とした事象も含めて今後継続して議論していくこととなった。

以下の質問と回答があった。

Q：前回分科会で反映否とした2事象について、どちらも廃止措置中のプラント（福島第二）で発生した事象であるが、運転中の他プラントでも発生する事象であ

ると劣化判定会議で判断されたのか。

A：そのように判断された。

Q：前回分科会で反映要とした2事象について、分科会側のまとめ表の作成過程で現れなかったのはなぜか。

A：分科会では各プラントのPLM評価書の内容からまとめ表へ反映されるフローとなっており、トラブル発生からまとめ表の反映までにタイムラグがあるため、まだ現れていなかった。今回反映した2事象は、もし劣化判定会議から提案がなかったとしても、大飯3号のPLM評価書に記載があるため、追補4で反映される予定だった。

(6) 長期運転体系検討タスク（フェーズ2）の状況報告（P14SC64-5）

長期運転体系検討タスクの状況（フェーズ2）の状況について、報告された。

(7) 米国SLRに関する技術情報（P14SC64-6）

最新の米国SLRの動向について、後藤常時参加者より報告があり、2022年6月のSLR動向を確認して、今後PLM実施基準でもリスク情報の扱いについて議論が必要だが、現状で標準へ反映すべき事項がないことを確認した。

以下の質問と回答があった。

Q：選択腐食は脱成分腐食のことだと思われるので「選択腐食（脱成分腐食）」と記載した方が良いのではないか。

A：今後金属に対して「選択腐食（脱成分腐食）」と記載していく。

(8) PLM実施基準の5年計画記載案（P14SC64-7）

システム安全専門部会及び標準委員会で報告する予定のPLM実施基準の5年計画案が説明された。

6. その他

PLM 実施基準改定のスケジュール及び前回のシステム安全専門部会・標準委員会の議事録案でPLM 分科会に関連する箇所が報告された。

次回分科会は2023年1月にWebにて実施することとなり、後日日程調整を行うこととなった。

以上